

1. 目指す学校像

建学の精神である校訓三綱領の『一、履正不畏(りせいふい)：自ら正しいと信ずることを、何ものにも畏れず勇気と責任を持って実践する。二、勤労愛好(きんろうあいこう)：勉学に全力をつくし、人類の文化を継承発展させ、国家社会に貢献する。三、報本反始(ほうほんはんし)：初心にかえり、自分の今日あるのは縁ある人々(ご両親や恩師)のお陰であり、常に感謝と報恩の念を持ち、行動の指針とする。』の訓えをもとに、知性と豊かな人間性を有し、次世代を担える生徒の育成。

2. 中期的(平成28年度)教育指導 重点目標

(1) 知育尊重と人間教育

1. 進学指導の充実と進学実績の向上
2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導
3. 3ヵ年・6ヵ年の各コースの特性を活かした学習・進学指導

(2) 私学履正社として、ニーズに応える信頼づくり

1. 生徒・保護者からの信頼づくり
2. 社会性の育成と地域に信頼される学校づくり

(3) 環境・システムの醸成

1. 心豊かで潤いのある学校生活

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年度末]	【 学校運営協議会 構成メンバー 】 学校長・副校長・教頭(教務部長兼務)・ 生徒指導部長・進路指導部長・保護者会会長 学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活は楽しい ( H.28年度：82.2% H.27年度：89.1% )</li> <li>・授業に先生方の熱意が感じられる。 ( H.28年度：87.0% H.27年度：81.2% )</li> </ul> <p><b>【保護者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者としてこの学校に子供を通わせて満足している。 ( H.28年度：91.0% H.27年度：90.0% )</li> <li>・授業に先生方の熱意が感じられる。 ( H.28年度：93.0% H.27年度：85.2% )</li> </ul> <p><b>【教職員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は授業に対する十分な教材研究・事前学習に努めている。 ( H.28年度：91.3% H.27年度：91.7% )</li> <li>・生徒はしっかりと集中して授業を受ける体制が出来ている。 ( H.28年度：91.3% H.27年度：79.2% )</li> </ul> <p><b>【学校運営全般】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と保護者の全体質問(生徒：38問、保護者：38問)に対する肯定回答比率(四捨五入で7割を肯定目途とする)は、両者とも前年を大きく上回り、生徒で前年比+16.5%の86.8%、保護者が前年比+7.9%の97.4%となる。例年、保護者%は高いものがあるが、生徒%でこの数字はとても喜ばしい限りである。</li> </ul>	<p>第1回(H.28年5月20日 11:00～約1時間) *本年度の中期的重点目標内容を保護者会会長に説明、賛同を得る。</p> <p>第2回(H.28年10月22日 13:15～約1時間) *中学部に対しても(高校部同様)新校舎建築工事中を踏まえ、新年度4月からの使用に対し、工事の進捗状況の説明をする(遅れなく順調に進行)。また、体育等のグラウンド使用となる学校生活は、豊中市より借用する運動施設で生徒に補填している事も説明する。説明内容には一定の理解を得られる。保護者会の要望として今後も引き続き、“生徒に対して安全第一”を最優先に、また生徒に不利益が生じ無いよう最大限取り組むことを確認。</p> <p>第3回(H.29年3月23日 13:00～約2時間) *平成28年度教職員による自己評価、及び生徒・保護者による関係者評価に基づき、昨年度/内容によっては一昨年度と対比し総括する。</p> <p>① 一人の保護者として、また保護者会として、分かり切っていた事とは言え、これまで子供達がストレス発散の場としてきたグラウンドが長期間使用できず(体育の授業やクラブ活動は公共施設で何とか上手くやりくりを付けて頂いておりますが)、『学校が面白くない病・行きたくない病が出てこなければよいのだが…』と内心ずっと案じてきました(昨年度末のこの場でも子供たちのケアについては重々お願いをしました)が、結果《生徒：学校は楽しい(工事前のH.25～H.27までの3年平均で90.6%に対し)H.28は82.2%、保護者：この学校に子供を通わせて満足している(工事前のH.25～H.27までの3年平均で91.7%に対し)H.28は91.0%》を見て安堵しました。中期的重点目標にもある、学校生活に“潤い”がきつとあるのでしょうか。担任の先生方のみならず教科の先生方皆さんが子供達の些細なサインも見逃さず事なく、常に家庭と連携をとり育んで頂いている結果(家庭との連携ぶりは、職員<u>の自己評価内の進路指導面【91.3%】と生徒指導面【100%】が裏付け</u>)と感謝します。新校舎での授業が楽しみです。後、グラウンド整備が新年度1学期間あると聞いています。最後まで“安全第一主義”でお願い致します。</p> <p>② 先生方の生徒に対する熱い思いが、授業だけでなく教材研究にも及び、その姿勢が見事に生徒へと伝わっていることは、左記の自己評価内の『生徒はしっかりと集中して授業を受ける体制が出来ている』の数字が飛躍的に伸びていることから理解できます。これも中期的重点目標にもある“3ヵ年・6ヵ年の各コースの特性を活かした学習・進学指導”が効果的に実践され、両コースとも見事なH.29年度進学実績へと結実したと保護者会は理解します。本年度もあと僅か、学校運営計画は大過なく順調と評価します。来年も更なる飛躍・躍進を期待しています。</p>

### 3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指数	自己評価
(1) 知育尊重と人間教育	<p>1. 進学指導の充実と進学実績の向上</p> <p>あ) 3 い) 38 う) 39 え) 40 お) 41 か) 42</p> <p>2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導</p> <p>あ) 21 い) 25</p> <p>3. 3カ年・6カ年の各コースの特性を活かした学習・進学指導</p> <p>あ) 3 い) 25・26</p>	<p>1.</p> <p>あ) 教員間の相互理解・信頼関係に基づき教育活動を実践する。</p> <p>い) 教科会議で授業内容について意見交換し、授業見学を行う機会を設ける。</p> <p>う) 初任者など、経験の少ない教職員をサポートする体制を整える。</p> <p>え) 校外の研修に教員が参加できる体制を整える。</p> <p>お) 研修・研究に参加した教員が、その成果を他の教員と共有できる体制を整える。</p> <p>か) 教職員は、常に資質向上の意欲を持ち、効果的な教員研修を受ける。</p> <p>2.</p> <p>あ) 学習内容は生徒の学力・能力に応じて進める。</p> <p>い) 学習指導において生徒の実態に即した指導に努める。</p> <p>3.</p> <p>あ) 教員間の相互理解・信頼関係に基づき教育活動を実践する。</p> <p>い) 個々の生徒について状況などを把握する体制を整える。</p>	<p>1.</p> <p>あ) 70%以上</p> <p>い)～か) の平均指数 70%以上</p> <p>2.</p> <p>あ)～い) の平均指数 80%以上</p> <p>3.</p> <p>あ) 70%以上 い) 80%以上</p>	<p>1.</p> <p>あ) この3年間平均で69.5%、H.28年度は昨年比+11.6%となり78.3%に至る。確実に教科担当と担任との情報交換の場を目にする機会が増えている。問題が発生した場合でも一人で抱え込むことなく、組織として積極的に対応する姿勢は正に、相互理解・信頼関係の具現化と評する(○)。</p> <p>い)～か)のH.28年度平均指数は、前年比+7.3%とはなつたものの34.8%(×)と低迷している。例年言及しているが、予備校主催の中学校対象の“専門教科の研修会”等は殆どなく、他校への見学もままならない。しかしながら、H.29年度より教員研修の絶好の機会を学内開催で実施する。“大学入試改革対応研修会”を当面の間、中高全職員対象で実施予定である。中学部では6カ年コースも併設しており、当然のことながら中学時代より大学入試に関心を持たれる保護者の方も多く、中期的教育目標にもあるように、6カ年コースの特色を活かした指導をする上で、齟齬の無いよう上記学内研修を通し、教員間の意見交換も含め体制の充実を図る。う) -39に関しては、本校のチューター制度は健全に機能しており、また、高校職員が中学部へ移動となった場合(逆の場合も同様)も、経験豊かな中学部教師の十分なサポートを受けており、全く問題ないと考える。</p> <p>2.</p> <p>あ)～い)のH.28年度の平均指数は、前年比+14.4%の95.7%に至る(◎)。この3年平均でも90%を維持しており、教師の自己評価の高数値と保護者の学校評価にある“この学校に子供を通わせて満足している”が同水準で合致している。本校に託された期待をしっかり受け止め、更にきめ細かな教育を心がける。</p> <p>3.</p> <p>あ)(○)分析は1・あ)を参照。 い)のH.28年度の平均指数は93.5%、この3年平均でも86.1%となり、総合評価をしても(◎)と言える。募集人数を両コースとも絞り込んで4年。個々の生徒の的確な把握と管理が更に充実し、私学に子供を託する保護者の期待に添えられていると実感する。</p>
(2) 私学履正社として、ニーズに応える信頼づくり	<p>1. 生徒・保護者からの信頼づくり</p> <p>あ) 23・26・27・28・29・31</p> <p>い) 24・30・32</p> <p>う) 33・34</p> <p>2. 社会性の育成と地域に信頼される学校づくり</p> <p>あ) 11・12</p>	<p>1. 生徒・保護者には次のあ・い)の観点で信頼作りの基盤とする。また、生徒の出身小学校に対しては、う)の観点を信頼作りの基盤とする。</p> <p>あ) 生徒の生活指導・進路指導・欠席過多の場合、組織的に対応する体制を整える。</p> <p>い) 上記あ)に対する指導は、常に保護者と連携を取り学校と家庭の両輪で指導を行う。</p> <p>う) 生徒の転・退学に至るまでの十分な指導と、保護者・出身小学校との密な連携を常に心掛ける。</p> <p>2.</p> <p>あ) 地域住民に対し、施設・設備の貸し出しや、交流を積極的に図る。 *来年度より、“社会性の育成”を掘り下げるため保護者用の学校評価内の20項目を職員の自己評価内でも追加検証する。</p>	<p>1.</p> <p>あ) の平均指数 80%以上</p> <p>い) の平均指数 80%以上</p> <p>う) の平均指数 80%以上</p> <p>2.</p> <p>あ) の平均指数 70%以上</p>	<p>1.</p> <p>あ)のH.28年度の平均指数は前年比+15.6の85.5%に至る(○)。この3年平均でも75.5%と体制の順調な機能ぶりが伺われる。その内容をい)で検証すれば、H.28年度の平均指数は前年比+2.6%の94.2%(◎)に至り評価できる。肝心なことは、現場の思い込み・一方通行であつては家庭との両輪指導の成立とはならない。この点を保護者の学校評価内の12,14,31項目で検証する。学校サイドの高数値には至らないが、H.28年度の平均指数は84.2%の保護者の方が学校との適切なコミュニケーション・両輪指導を感じて頂いていることが裏付け出来た。</p> <p>う)H.28年度の平均指数は78.3%と前年比+13.7%となるも目標値を若干下回る(△)。ただ、このケースに至る例は殆どないが、至れば上記い)で言及しているように何とか回避すべく、家庭との両輪で特段の連携をとっているのが実態である。</p> <p>2.</p> <p>あ)H.28年度の平均指数は、前年比+10.1%となるも43.5%と極めて低調である(×)。地域とのコミュニケーションを図るべく、地域に貢献する清掃のボランティア活動をしたり、新聞に取り上げられる地域(近隣住民・小学生)ぐるみの一大天体観測ショーの実施(昨年は校舎建設で1年お休みはしたが)や、施設を貸与しての地域住民対象の生涯教育活動(本校職員がその指導にも貢献)等は長年に亘り継続して実施している。教職員の認識育成に更に努めたい。</p>
(3) 環境・システムの醸成	<p>心豊かで潤いのある学校生活</p> <p>あ) 6・7・8</p> <p>い) 9・10</p> <p>う) 17・18</p>	<p>あ) ホームページ、学校・学年・学級から保護者への情報提供と授業公開を定期的に行い、開かれた学校づくりに努める。</p> <p>い) 危機管理マニュアルを踏まえ、警察・消防や関係機関との連携に努め、適切な校内訓練のシステムを構築する。</p> <p>う) 環境教育の一環として、ゴミの分別・日々の清掃指導の徹底を図る。</p>	<p>あ) の平均指数 80%以上</p> <p>い) の平均指数 80%以上</p> <p>う) の平均指数 80%以上</p>	<p>あ)昨年、重点目標の具現策として中高HP委員会を発足させたが、早速効果が出た。H.28年度の平均指数は、前年比+20.6%となる92.8%となり、3カ年平均でも84.8%に至り総合評価(◎)としても上々であった。更にタイムリーな情報提供に努める。</p> <p>い)H.28年度は前年比+17.4%とかなりの回復を見せた(67.4%)が評価指数には遠かった(×)。自然災害に備えての訓練は校舎建て替えの状況下の為、緑地公園を避難場所とする訓練となった。この1年、自然災害への対応は言うまでもないが、校舎建て替えの状況下で生徒の安全第一で指導の徹底を図ってきたので実数はもう少し上がっていても・・・と言う少し残念な思いである。</p> <p>う)H.28年度の平均指数は、前年比+6.1%となるも45.7%の意識レベルであった(×)。学校工事期であるからこそ一層、生徒への意識付けの良い機会と捉え、職員付添いで清掃活動を中高全校レベルで取り組んできたので、この項目も実数値はもう少しあつても良いと考える。H.29年度は2学期以降、校舎もグラウンドも全ての工事が完成する。これを機に、更に“清掃活動の充実と徹底”を図りたい。</p>